

英語を楽しく

No. 77

27, October

10
27

☆「英語を話すとき間違えてもいいから」の精神は大切、でも、どうしても間違ったらいけないもの

① 「どうしたの。」と普段の様子と違う人に聞いてはダメな英語文。

What is the matter with you?

この文は、

「いったい何があったのだ、君、何か重大な過ちでもしたのか。」
という文意で、非常に緊急事態のときに使います。

「どうしたの。」と相手の元気の悪い様子を見て言う場合には、

What happened? 「どうしたの?」「なにかあったの?」

What up? 「どうしたん?」「なにかあったん?」(ごく親しい人に)

と聞きます。

[**matter**: (問題となるほど)重要である・**the** ~やっかいな困ったこと]



② 「君、まちがっているよ。」と相手(考え方や態度)を注意するとき、

You are bad.

と言うと、相手はきつと怒る。 **You are bad.** の意味は「君は悪人だ。」の意。

こんなときは、

You are wrong.

と言います。この文は、人を非難しているのではなく、むしろ相手のことを思っている言葉と受け取っていいでしょう。

③ **How are you?** と言われて、**I'm fine.** と言うのは普通。でも、ちょっとかっこよく? **Im in good condition.** なんて言うと、かえって軽蔑されるかも。

Im in good condition. は一流のスポーツ選手が(「調子はいいですよ。」と言う風に)使う言葉と思われているからです。普通の人には **I'm fine. I'm happy.** で十分。

How are
You?



☆ 英会話は、文・短く、易しい言い方がいい。

理由 ① いいやすい (文に抑揚がつきやすい)。

② 英語圏の人がわかりやすい (長文は抑揚の無い文になりやすく聞きづらい)。

③ 間違いが少ない。

④ 互いに短い文で話すそうとする方が

話の内容が的確に把握できて誤解が少ない。など。

もし長い文をお好みなら **and** をつけると
いくらでもなるんですが -----。

Yoshi